

31H 大坪 美月 32H 近江 莉緒 33H 辻 俊之介
 34H 武曾 司 35H 川口 鈴華 36H 大成 逢生 36H 長田 夕萁

■課題

能登への転入者数の停滞

■解決策

独自性のある移住支援体制→「まるで学校!？」な移住プロジェクトの提案

■現状(課題の背景)

<転入者数の現状>

- ・県外からUターンやIターンが増加
- ・1990年代後半から減少している
- ・能登の転入者数は近年、停滞している
- ・七尾への転入者が大部分を占めている

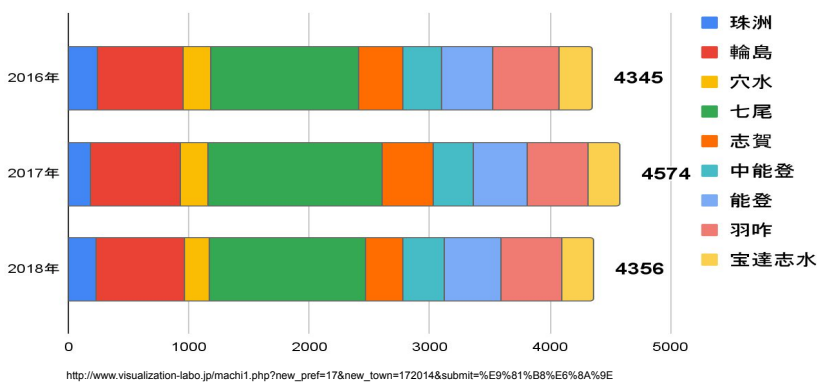
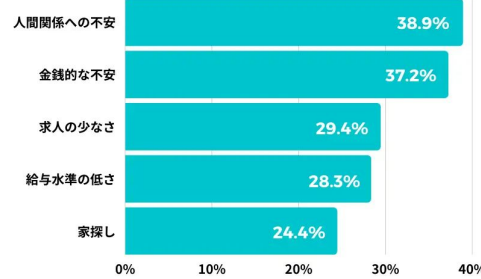


図1 能登での転入者推移

<地方移住における移住者の不安>



移住後の人間関係を心配する人が多い

図2 移住の際に障壁になる(なった)と感じたこと

具体的な不安点

- ・いじめられないか
- ・地域にとけこめるか、よそ者扱いされないか
- ・祭りや掃除の役割の負担がどのくらいあるのか
- ・相談できる相手がいない

どちらも他県と比べて少ない

<支援体制>

集落支援員 能登地域 6人
 地域おこし協力隊 能登地域 40人(令和2年)

■具体的内容

- ・集落の教科書の作成
- ・集落支援員の導入 (←先生)

■効果

- ☆移住前後のギャップを解消
 - ・ゴミ出しのルール
 - ・祭りのルール
 - ・冠婚葬祭に関して
- ☆地域社会への適応
 - ・昔ながらのしきたり
 - ・町内会のいろいろ
 - ・関係構築のコツ

【山形県遊佐町の例】

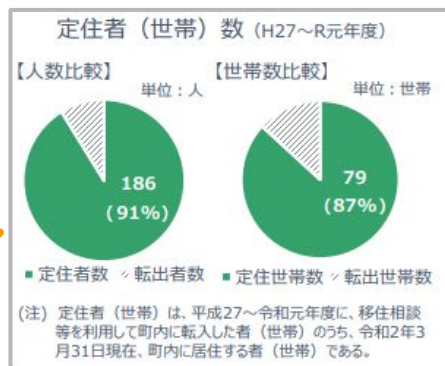


図3 定住率のグラフ

☆集落支援員
 地域に詳しい人材が
 移住前後の支援
 →定住を促進

定住率が高い

■具体的内容

- ☆移住体験ツアーの実施 (←授業)
 - ・個人のライフスタイルに合ったテーマ別ツアー (例:先輩農家との座談会、収穫体験、移住者交流、リモート説明会)
 - ・完全オーダーメイド型のプログラム
- ☆お試し移住で住居の貸出



■効果

- ・複数の地域の暮らしを気軽に体験できる
- ・田舎暮らしを体感できる
- ・移住先の環境を体感できる(生活環境、気候、雰囲気)
- ・地元の人との人間関係構築につながる
- ・現地の人に移住希望者と認識され情報が集まりやすくなる
- ・移住検討の判断材料

■参考文献

- 1) 地域おこし協力隊等と地域力創造施策について 総務省 地域力創造グループ 地域自立応援課 <https://www.chiikiokoshitai.jp/assets/common/pdf/event.pdf> (参照2022-02-17)
- 2) 移住・定住事例集しあわせな移住 総務省東北管区行政評価局 https://www.soumu.go.jp/main_content/000705630.pdf (参照2022-02-17)
- 3) お試し移住体験プログラム6選 一般社団法人移住・交流推進機構 https://www.iju-join.jp/feature_cont/file/095/ (参照2022-02-17)